



編集・発行
 日蓮宗 能勢妙見山
 広報部
 〒563-0132
 大阪府豊能郡能勢町野間中
 電話 072-739-0329
 FAX 072-739-2883

夏と冬が日ごとに入れ替わるようなこの頃ですが
 妙見山の植物たちは勢いを増し緑の美しい時節になりました
 太陽に照らされて目に眩しいばかりの山の姿もいいですが
 雨の煙る向こうにほんのりと輪郭を見せる丹波山系や六甲山を
 眼下に臨むのも悪くありません

【6月の主な行事】

★写経会 9日(日) 11時

★清掃の日 15日(土) 11時

妙見様のご神域の清掃に参加し、ご自身の心身を
 リフレッシュしてみたいかがでしょうか

★月例祈願法要 15日(土) 13時

★鷗様月例祭 22日(土) 15時

火伏せ守りの黒札を授与します

【7月の行事予定】

★写経会 14日(日) 11時

★清掃の日 15日(月) 11時

★月例祈願法要 15日(月) 13時

★鷗様月例祭 22日(月) 15時

☆虫払い会祈禱 22日(月)～24日(水)

宝刀「浪切丸」を頭頂に戴いて煩惱の虫を払います

●星嶺演奏会・茶論は当面の間休止

◎ご祈禱・御回向等のお申込はFAX・メールでも
 受け付けています

◎写経はご自宅でもできます お問い合わせ下さい

◎送迎バス 奉賛会会員並びに、ご祈禱ご回向のため
 ご参拝のご信者様の便宜を図り、能勢電鉄妙見口駅
 から山上までの送迎車を用意

利用ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡を
 願います。但しご希望に添えないこともあります

名付け

箕浦 溪介

コロナも少し収まった昨年の冬、息子が誕生した。感染対策も緩和され、出産に立ち会う事ができた。

初めて出産に立ち会い、いのちの誕生の瞬間を間近で感じた。男性の私には生涯経験することはできないし、またどれほど想像してみても実際の痛みは分かりようがないが、普段見ることのない妻の様子を目の当たりにして、ただただ圧倒させられるばかりで、妻の手を握り見守ることしかできなかつた。

それでも共に感じる事ができたこともある。その一つが名付けである。どんな名前にしようかと悩み、期日ぎりぎりに届け出た。

親は子に願いを込めて名前をつける。その願いとは「いい子に育ってほしい」とか「悔いのない人生をおくっ

てほしい」といったものだろう。しかし子どもがなかなか泣き止まない、思ったように寝てくれないなど、子どもがいると思ひ通りにならないと感じることが多くなると、いつの間にか自分の言うことを聞く都合のいい子どもに育ってほしいと考えるようになっていた。子どもに願う内容の身勝手さに気づかされる。

お釈迦さまには一人息子がいて名をラーフラと言った。ラーフラとは一説には「障碍・束縛」を意味するが、一族の長となる身でありながら家族を捨て出家得度を選んだ若き日のお釈迦さまにとって、子どもの誕生が心をざわつかせるものであったことは想像に難くない。かわいくて、修行ができなくなるし、心が子供に奪われるからだろう。

子供は幸せをたくさん与えてくれるが、それ以上に苦しみも与えるということ

なのだろうか。それでも、お釈迦さまは最終的にその一人息子を愛弟子として迎える。きつと親としての愛情もあつたはずで、『スツタニパータ』というお経には、お釈迦さまの实子であることと思ひ上がったラーフラを、お釈迦さまがいさめる記述も見られる。

傘かしげ 互いの思いやり
雨の中、傘を差して歩くのは気が重い。所用で細い路地を歩いていると、向こうから部活の帰りらしき高校生の集団が大きな身体を揺らすようにやって来た。傘と傘。どうやってすれ違おうかと思つたら、一列に並んでこちらが通り過ぎるのを待つてくれた。お互いに傘を外側に傾けて濡れずに通過できた。心の中に青空が広がった一幕です。

《法華經に学ぶ現代》

純智庵

如来の

演ぶる所の

經典は

皆衆生を

度脱せんが為なり

『如来壽量品第十六』

お経に説かれたみ教えは死者への供養と

いうよりは

生きてるあなたを救うため

如来が遙か彼方より

心やさしく手を伸ばし

身近かに語るものだけに

なかなかそこには

気づかない

それじゃあ

如来がお気の毒

知識まめ仏教

納経 (のうきょう)

辞書には、現在・未来の安穩や追善供養のため經典を寺社に納めること。またその經典などと説かれている。インドでは古くから

經典を土中に埋める、あるいは塔に納めるなどして信仰の対象としてきた。これが中国から日本へ入ってきた。特に末法思想の流行した平安時代の末頃から盛んに行われた。その華麗な装飾で有名な「平家納経」は平清盛が法華經・無量義經・觀普賢經など三十三卷を嚴島神社に納めたものである。

納経するには当然ながら、まず写経つまり經典を写さなければならぬ。法華經には法華經修行の五種の行の一つとして書写行が示され、その功德が絶大であることが説かれている。江戸時代になると納経の受取書をもらうことが盛んになり、現在の集印(朱印)帳へと変化してきた。